

◇熊野権現

天竺の常世思想が我が国に流れ来たつたのは、シュメルに繋がるドラヴィダ系アーンドラ王朝やマガダ国と何らかの接触があつてのことだろう。

「解説編」「倭国と天竺のかかわり」の中で述べたごとく、バラモン神の教え以外にも、マガダ国王に昇りつめた御仁が我が国に飛来して、神武天皇御代に熊野権現となつて顕れたとする「熊野権現垂迹縁起」が伝わっている。

『神道集』熊野権現の事と「熊野権現垂迹縁起」の要旨

その昔、ある御仁が唐の靈山から天台山にある王子晋という仙人の旧跡を慕つて、鎮西豊前国英彦山に天降りなされた。その形は、高さ三尺六寸の八角形の水晶石であつた。

その後、あちこちに在所を求めて長い年月を送つた後、熊野権現として顕れなされた。神武天皇の治世四十三年のことである。彼の権現は天照大神の頃の人であるが、示現された地は全国に広く行き渡っている。

一、天竺のマガダ国大王は、妃たちが起こした惨事を嘆いて王位も国も捨て、「我が身はどこへ行けばよいのか決めかねている。この劍を投げて、落ちた所に行こう」と言つて五本の劍を北に向けて投げ、王子らと共に空飛ぶ黄金の車に乗つてこれを追いかけた。

五本の劍は天竺や中国には留まらずに、小さな小さな日本秋津島に飛んで行き、一本は紀伊国牟婁郡神蔵（神倉山、熊野速玉大社の旧社地）、一本は筑紫の英彦山、一本は陸奥の中宮山、一本は淡路の和（遊鶴羽峰）、残る一本は伯耆大山に留まつた。大王の車は、五本の劍を追いかけて英彦山に到つた。そこから各地を転々として、最後は第一の劍に従つて紀伊国牟婁郡（熊野）に留まつた。大王はこの国に来て、七〇〇〇年間、姿を顕さなかつた。

一、唐の天台山の地主神・王子信が鎮西英彦山に天降った。その者は高さ三尺六寸で八角の水晶形をしていた。ついで伊予の石鎚峰から淡路の遊鶴羽峰に渡り、さらに熊野の神倉峰に降った。
 「**地元の伝説**」、「神武天皇は熊野の賊を退治できたことで、神倉山に登って十握剣（一説では布津御魂）を捧げ持ち、天照大神（一説では高皇産靈）にお礼の言葉を申し述べた」

☆王子信については、天台山から飛来する山王として厚く尊敬され、中国はもとより奈良・平安朝の文人らにもなじみ深い人物だった。

〔天台山〕、天台山は浙江省東部の天台県北方、二一キロメートルに聳える靈山。古くは、神仙（天台道教）の靈山として名をなしていた。

五七五年に、智顛らが入山して天竺直伝の法華経を唱えて根本道場としてからは、仏教の中心地に成り変った。平安初期に入唐した最澄は、天台山で法華経・達磨系禅宗などを修めた後、比叡山に寺院を建立して天台宗として教え広めた。その護法神にあたる日吉神社は、大山咋神（大歳神の児、素戔鳴の孫）を山王として祀ることで、山王とも山王権現とも呼ばれた。

倭国や倭奴国の国のかたちがバラモン神の教えに似通っているのも、日神が天上に君臨したごとく振る舞うのも、スメラミコトの呼称がシメメルやスメラ山に由来するのも、さらに牛頭天王が仏陀ゴータマと読めるのも、天竺のマガダ国大王が我が国に流れ来ったからに相違あるまい。

このマガダ国大王は、江南に聳える天台山道教の山王に担がれた後、豊葦原中つ国の大穴持や大國主に昇りつめた。さらに伊弉諾の養子に入って豊受皇太神と語り、仏法流布や常世づくりに入れ込むらしい。ではいつ頃、何処に流れ着いたのか、どう動いたのか、以下から見通せるはずだ。

伊勢神道によると、豊受皇太神と日神は、伊弉諾の児として外内宮の主座（伊勢大神）に鎮座している。ならば、皇太神は日神の天照大御神とも同等の地位にあつて然るべきだが、なぜか「記紀」にその名が出てこない。ヒミコの名もわかりだ。

筆者は邪馬台国の最重要人物であるこの二神について、その事績を明らかにして、邪馬台国の実態に迫りたいと奮闘努力した。その結果、以下のことが明らかになった。

①豊受皇太神は「記紀」にその名が見当たらないものの、伊勢神道や真言密教の本地垂迹説、あるいは古社の縁起では頻繁に登場してくる。それだけではない。彼は天照大神の異名も有して、日神より上位の神とされてきた。

外宮の伊勢神道や石上神道の伝えるところでも、天照大神は男神とされてきたし、学識の間でも「女神の天照大御神以前に、男神の天照大神が存在していた」と説く向きがいる。

にもかかわらず「記紀」では、天照大(御)神は女神だけのごとく記されてきて、男神天照大神についての記載は一切見あたらない。それは、次のことに起因している。

「彼は伊奘諾太子でありながら大乱の引き金を引き、倭奴国王朝を転覆させた。それ故、帝紀や旧辞から抹殺された。だが彼の血を引く「記紀」の編纂者たちは、女神天照大御神の事績に男神のそれを密かにつけ足した。我々はそれも女神の事績と思いつまされてきた」

②ここで、熊野権現や皇太神すなわち天照大神の生い立ちについて考えたい。これを解く鍵はほぼ揃っている。熊野縁起は「熊野権現は伊勢太神と同体である」とし、熱田縁起もこう伝える。

「熱田明神は、熊野権現、伊勢太神と一体分身である」

「熱田明神の大日如来は、天照大神であり、天叢雲剣にほかならない」

物部氏寄りの『ホツマツタエ』も、天照大神が志摩伊雑に宮を置いていたとする。その伊雑宮(磯部宮、三重県志摩市)は、徳川期の朝廷や将軍に訴状を出して、こう主張してきた。

「伊雑皇大神宮は日本最初の宮で、後に内宮ができ、次に外宮ができた」

「当宮は天照大神を祀り、内宮の別宮(遥宮)である。伊勢太神は当地から遷された」

熊野権現が伊勢太神と同体か否かについては、後白河院が熊野行幸を始めた一一六〇年の三年

後に、議論が沸騰した。結果はこれを否定するところに落ち着いたが、筆者がこれに深く思いを巡らし、心にその意を悟った限りでは、縁起どおりに、熊野権現すなわち天竺のマガダ国王は、熱田明神、伊勢太神、男神の天照大神に他ならないと断じざるを得なかった。

③次に、彼の生い立ちはどうだったのか。いつの頃に、いかにして頭角を現してきたのか、いかなる実績を残したのか、これを解く鍵もほぼ揃っている。その一つは、「神事芸能」大社の段、加賀神社（島根県松江市）に伝わる縁起、『出雲国風土記』『島根郡』の条にある。

「神事芸能」、加賀神社の縁起、「天照大神の生所とするために、加賀の潜戸と名づけたり」
 ☆加賀神社は、伊奘諾・伊奘冉・天照大神・キサカ姫・猿田彦を祀る。近辺には、猿田彦の遊び育った伝説がやたらと残る。

『出雲国風土記』『島根郡』や佐太神社縁起、「(加賀潜戸は) 佐太大神の生まれましし所なり。母のキサカ姫は『闇き岩屋なるかも』と言つて、金の弓矢を持ち射給いし時に、光輝けり」
 いま一つは、出雲大社と佐太神社がとり行う神在祭にある。それは陰暦十月の神無月(出雲では神在月と呼ぶ)に、竜蛇神と呼ばれる「神のお使い」が南洋から島根半島に流れて来て、丁重に迎えられる儀式を言った。そのお使いとは、荒れた海から浜辺に打ちあげられる背黒海蛇(腹面が白く背の黒い毒海蛇、インド洋や太平洋に分布)だ。

背黒海蛇が神のお使いとされた所以は、両社の祭神がオロチであること、海蛇の鱗が六角形であること、白一色の胸辺りにぼつんとある黒い鱗が両社共通の亀甲神紋(六角形)に見えることにある。つまり、南洋から海流に乗って流れ来た背黒海蛇の生態は、オロチと呼ばれる水天照大神の生国や漂着先を教えているようであり、この御仁を尊ぶ両社の紋つきを羽織った格好までして、神(水天照大神)のお使いとして誠に相応しい生き物なのだ。

④これでわかるように、皇太神の生い立ちは複雑極まりないが、簡潔にまとめるとこうなる。

「中国に渡来した天竺のマガダ国大王は天台山にこもって修行していると、たちまち天台道教の山王に担がれた。その後は島根半島に流れ来て、しばし加賀潜戸で修行していた。

そこでも、彼の仁徳や非凡さが知れ渡って佐太国の佐太大神や大穴持に、ついで杵築国の大国主に担がれた。さらに豊葦原中つ国の建て直しを懇請された上に、神皇産霊や国常立を襲名して金の弓矢を授かった。

当時、神国・常世づくりに四苦八苦してきた伊弉諾は、大穴持が天竺の常世思想に加えて仏法と学問に並外れた才があると聞くや、天竺を凌ぐ常世を実現したいとして養子に取り込んだ。同時に彼の後釜として、豊葦原中つ国の中興の祖・いっのかぐつち厳香具土かぐつちにつながるかぐつち厳香来雷かぐつちを担ぎ出した」

その結果、大穴持は伊弉諾の愛児（真名子）となつてとんとん拍子に出世し、豊受（天照）皇太子（皇太子）の位に昇りつめた。その後は、義父とともに仏法流布・常世づくりに走り回った。

当時の国づくりを検証していくと、五帝期や天竺の真似ごとがそこ彼処から見つかるはずだ。⑤これらを総合して、以下の結論にたどり着いた次第だ。

「天台山山王に昇りつめたマガダ国大王は、島根半島に飛来して豊葦原中つ国王にのし上がるのと所造天下大穴持・佐太大神・大国主・牛頭天王・石神、神皇産霊・国常立・天御中主と称した。

その後、伊弉諾の養子となつて熊野櫛御氣野・御饌津神、次に向津姫に婿入りして豊受（天照）皇太子・月神・月読命と語ったが、一八〇年代中頃、義父伊弉諾に叛いて邪馬台国を興し、天照大神・水天神・天叢雲・倭大物主・（八岐の）大蛇・豊受大神、高皇産霊など名を使い分けた」

⑦これが正しいかどうか、歴史物語を通して検証して頂きたい。邪馬台国期には、天叢雲剣と八咫鏡および天照大神と天照大御神が伊勢太神として共に祀られた経緯も容易に理解できるはずだ。以下、男神天照大神と深く関ってきた「牛頭天王と磐座信仰」、比良山系東麓の「白髭神社と謡曲白髭／蓬萊郷と仏法・山王信仰の聖地」についても、じっくりと検証して行きたい。